

## 2009年度第6回 Lラーニング学習支援システム研究分科会記録

---

日 時：2009年1月29日（金）14:00～17:00

場 所：IAAL 大塚事務所

出席者：阿部（東京歯科大学）、小田切（麻布大学）、金子（早稲田大学）、南雲（国際大学）、高野（オブザーバー）、田代（日本女子大学：記録）

配布物： 第6回 Lラーニング学習支援システム研究分科会タイムテーブル

2009年度研究分科会報告大会における発表要旨（私立大学図書館協会会報原稿）の提出について（依頼）

2009年度研究分科会活動報告等の原稿提出について（依頼）

前期における他の分科会の、刊行・配布状況一覧

昨年度に提出した当分科会の、活動報告原稿

---

### 1. 事務連絡

- ・年会費無料だが、予算に余裕がある。
- ・配布物について、 の締め切りは2月19日（金）につき、まずは各自の発表部分について（各自2ページ弱）作成し、メーリングリストで連絡する。締め切りを2月9日とする。 の締め切りは3月19日（金）、 に準じて作成する予定。

### 2. 発表反省

- ・発表自体が貴重な経験。
- ・PBLについては触れただけにとどまったが、今後もっと発展させる。

### 3. PBL について

1) 阿部氏より 2009年9月25日に行われた講演の紹介

第14回図書館利用教育実践セミナー

「図書館利用教育の新潮流：問題発見・解決型の PBL/チュートリアル教育とその支援」

<http://www.jla.or.jp/cue/friday14.html>

講師：長澤多代氏（三重大学高等教育創造開発センター准教授）

佐藤淑子氏（東京女子医科大学図書館次長）

2) 高野氏より溝上慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授）の教授法の紹介

3) 対象が同じである研修分科会について

- ・当分科会には被験者がいない。Moodle をやってもらうなどの協力を願いたい。
- ・次期活動において、PBL をさらに理解してストーリーを構築、実験してフィードバック・評価をしたい。それらについて協力を依頼してはどうか。
- ・研修分科会でコミュニケーションツールとして moodle を使いたいという場合は、次年度からでも対応可能。

#### 4 ) PBL の理解について

- ・文献を調べて、要約を分担するなどしてまとめるというオーソドックスな活動を行い、概念や事例・問題点をとらえて理解を深め、システムに融合できると良い。
- ・利用者への適用、使ってもらうという点は研修分科会にご協力願う。
- ・評価やコメントの提供を、当分科会メンバーが行えるか？

#### 4 . 学習支援システムについて

- ・利用者へのレファレンスに関して課題解決を経験するシステム 図書館運営上の課題解決を経験するシステムの2種類に分別できる。 のキーワードは moodle・ブレンディッドラーニング、 はリポジトリ。
- ・対面式、システム、いずれにもできることとできないことがある。  
( ex. プレーンストーミングの e-learning 化は難しい。 )
- ・モデルを構築して提示する。(「モデル化」) システム提示まではいかない可能性がある。
- ・コミュニケーションツールは SNS にしてはどうか？

#### 5 . 次期分科会活動の計画

- ・まずは文献レビュー、その後システムとの融合の検討を1年間で行うこととする。
- ・本当に Moodle が適しているのか、別の新たなシステムの可能性も残る。

次回例会 5月(予定)会場未定

以上